

政策シート (政策名) はままつ流の多様な暮らしに対応した「安全・安心・快適」な交通を目指して
(予算費目名) 交通政策推進費

(総合計画体系)

「分野」 安全・安心・快適

30年後の姿 どこでも安全、いつまでも安心、持続可能で快適なまちになっている。

- 10年後の目標
- ・ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
 - ・ 居住エリアの集約化などが進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

◆基本政策 市民が集う活力ある都市づくり

◇政策の概要

地域特性に対応し、過度に自動車に依存しない、公共交通を基軸とした交通行動への転換を図るための交通施策を複合的に実施することにより、安全・安心で快適に移動することができる都市づくりを進める。

- 交通計画推進事業
都市交通に関する計画の策定及び事業の実施により円滑で利便性の高い交通サービスを提供する。
- 公共交通推進事業
使いやすい公共交通ネットワークの構築を図り、市民生活に必要な移動サービスを提供する。
- 天竜浜名湖鉄道経営支援事業
沿線住民の生活基盤となっている本鉄道を存続し、安定したサービスを提供するため、経営支援を行う。

◇政策のコスト(千円)

| | H27 | H28 | H29 | H30 |
|------------------|---------|---------|---------|---------|
| 予算 | 781,636 | 928,600 | 858,810 | 695,798 |
| 決算 | 768,021 | 740,233 | 823,555 | |
| 人件費(A) | 97,300 | 97,300 | 97,300 | 93,900 |
| 報酬(B) | 226 | 332 | 423 | 854 |
| 年間経費(予算又は決算+A+B) | 865,547 | 837,865 | 921,278 | 790,552 |

◇政策の指標

| 政策指標 | 単位 | H36 目標値 | 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------------|----|------------|----|---------------|---------------|---------------|---------|
| 公共交通機関利用者数 | 万人 | 5,802 | 目標 | 5,802 | 5,802 | 5,802 | 5,802 |
| | | | 実績 | 5,170(H26実績) | 5,223(H27実績) | 5,192(H28実績) | |
| 主要な駅、バス停の利用者 | 千人 | 約27,200 | 目標 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 |
| | | | 実績 | 27,017(H26実績) | 27,575(H27実績) | 27,632(H28実績) | |
| | | | 目標 | | | | |
| | | | 実績 | | | | |

◇平成29年度の政策評価(政策の概要)

地域特性に対応し、過度に自動車に依存しない、公共交通を基軸とした交通行動への転換を図るための交通施策を複合的に実施することにより、安全・安心で快適に移動することができる都市づくりを進める。

- 交通計画推進事業
都市交通に関する計画の策定及び事業の実施により円滑で利便性の高い交通サービスを提供する。
- 公共交通推進事業
使いやすい公共交通ネットワークの構築を図り、市民生活に必要な移動サービスを提供する。
- 天竜浜名湖鉄道経営支援事業
沿線住民の生活基盤となっている本鉄道を存続し、安定したサービスを提供するため、経営支援を行う。

◇平成29年度の政策評価(政策の進捗・課題)

<進捗> 計画通り

- 交通計画推進事業
円滑性等の向上を目指した計画を策定した。順次、関係者との協働の基に施設改良事業等へ移行する。
- 公共交通推進事業
市内統一の距離制運賃制度の導入や、地域バス及び公共交通空白地有償運送におけるICTシステム導入により、運行改善を行う。
- 天竜浜名湖鉄道経営支援事業
県及び沿線市町と協力して経営支援を行った。継続して支援を行う。

◇政策実現のために実施する事業一覧

| No. | 事業名 | 総合戦略 | 重点戦略 | 主要事業 | 完了 | コスト (千円) | 事業費 (千円) | 人工 | | | | 報酬 (千円) |
|-----|---------------------|------|------|------|----|-------------|-------------|------|--------------|--------------|-----|------------|
| | | | | | | | | 正規 | 再任用 (31h) | 再任用 (26h) | 非常勤 | |
| 1 | 交通計画推進事業 | ○ | ○ | | | 53,781 | 17,927 | 5.0 | | | | 854 |
| 2 | 公共交通推進事業 | ○ | ○ | ○ | | 333,303 | 298,303 | 5.0 | | | | |
| 3 | 天竜浜名湖鉄道経営支援事業 | | | | | 379,372 | 375,112 | 0.3 | 0.6 | | | |
| 4 | 交通政策推進運営経費(一般諸経費のみ) | | | | | 24,096 | 4,456 | 2.6 | 0.4 | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | |
| 16 | | | | | | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | 790,552 | 695,798 | 12.9 | 1.0 | | | 854 |

※人工単価(千円)正規7,000 再任用(h31)3,600 再任用(h26)2,600 非常勤2,800

事業シート (事業名) 交通計画推進事業

◇事業目的・事業対象

本市の都市交通に関する調査、協議及び各種交通計画を策定するとともに、計画に基づく事業の実施により円滑で利便性の高い交通サービスを提供する。

◇事業の概要

- 浜松21世紀都市交通会議等運営事業
 - ・ 浜松21世紀都市交通会議にて総合交通計画の進捗管理、見直しを行うとともに、地域公共交通会議にて地域バスの実証運行や改善運行について協議、検討を行う。
- 総合交通計画推進事業
 - ・ 現在見直し中の浜松市都市計画マスタープランが示す将来都市構造との整合を図るとともに、内陸部への企業集積やバス運転手不足など公共交通を取り巻く新たな課題に対応するため、当初計画策定から10年が経過する平成32年の公表を目指し浜松市総合交通計画の見直しを行う。
 - ・ 浜松駅南口周辺の交通の整流化及び歩行者の交通安全の向上と北口周辺のバリアフリー化に向けて関係者との協議、改良案の検討を行う。
 - ・ 国、民間が研究開発を進めている次世代交通システムについて情報収集を行う。

◇事業の性質

| 開始年度 | 終了予定 | 会計区分 | 事務区分 | 根拠法令等 | 総合戦略 | 重点戦略 | 主要事業 |
|------|------|------|-----------|----------------------|------|------|------|
| H13 | - | 一般会計 | 自治事務(その他) | 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 | ○ | - | ○ |

◇事業のコスト

| | | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---------------|----------|--------|--------|--------|--------|
| 事業費(千円) | 予算 | 14,320 | 15,068 | 65,917 | 17,927 |
| | 決算 | 13,603 | 14,995 | 49,291 | |
| | 国・県支出 | | | 10,431 | |
| | 市債 | | | 7,600 | |
| | その他 | | | | |
| | 一般財源 | 13,603 | 14,995 | 31,260 | 17,927 |
| | 一般会計繰入金 | | | | |
| 人件費(報酬等) (千円) | | 226 | 332 | 150 | 854 |
| 人件費 (千円) | | 35,000 | 35,000 | 35,000 | 35,000 |
| 人工 | 正規 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| | 再任用(h31) | | | | |
| | 再任用(h26) | | | | |
| | 非常勤 | | | | |

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
|--------------------|-------------------------------------------|---------|---------|----------|---------|----------|
| 公共交通機関利用者数(万人) | | | | - | | |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | 5,802 | 5,802 | 5,802 | 5,802 | 5,802 | 5,802 |
| 実績値 | 5,170(H26実績) 5,223(H27実績) 5,192(H28実績) | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 主要な駅、バス停の利用者(千人) | | | | Ⅲ-4(1)イ | | |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 |
| 実績値 | 27,017(H26実績) 27,575(H27実績) 27,632(H28実績) | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |

◇平成29年度の事業評価

・平成29年度の事業の概要

- 浜松21世紀都市交通会議等運営事業
- ・浜松21世紀都市交通会議にて総合交通計画の進捗管理を行うとともに、地域公共交通会議にて地域バスの実証運行や改善運行について検討を行い、地域バスへ距離制運賃制度の導入を行う。
- 総合交通計画推進事業
- ・浜松市総合交通計画増補版に位置付けた「交通ネットワーク検証エリア」について、工場立地に伴う交通状況の変化に対応するため企業、地域、交通事業者等との関係者協議を行い、浜北駅からの企業バスの新規運行や道路管理者による交通安全対策、交通管理者による信号現示調整など、ソフト・ハード両面からの対策を実施する。
- ・浜松駅南口周辺の交通の整流化及び歩行者の交通安全の向上のため市道砂山菅原線の改良工事及び砂山17号線の改良に向けた詳細設計を行うとともに、北口周辺についてはバリアフリー化案に伴う自動車交通への影響調査、関係者との協議を行う。
- ・国、民間が研究開発を進めている次世代交通システムについて情報収集を行う。

・事業の成果と課題

指標の達成度

計画通り

- ・浜松21世紀都市交通会議を2回、地域公共交通会議を2回開催した。
- ・交通ネットワーク検証エリアについて産業部、土木部、都市整備部による庁内検討会を組織し、交通混雑緩和に向けて交差点改良や交通安全対策等のハード施策、企業への時差出勤や企業バス運行の依頼等のソフト施策の両面から対策を実施した。また、立地企業や交通事業者、地元自治会等の関係者と対策についての協議、意見交換を行った。
- ・浜松駅南口について砂山菅原線の改良工事を実施し、利便性及び安全性向上のため歩きやすい歩行空間を創出した。北口についてはバリアフリー化案による周辺の交差点への影響調査や混雑緩和に向けた信号現示案を検討した。
- ・国が研究開発を進めている自動運転技術を活用した交通システムについて情報収集を行うとともに、地域バス等へのICT導入や自動運転プロジェクトへ参画した。

・事業の見直し

実施結果

大項目 改善 小項目 協働・助成 / - 事業費 現状 人工 現状

- ・内陸部への企業集積に伴う交通混雑への対応について、産業部・土木部と連携しソフト・ハード両面からの対策を実施した。特に、ソフト施策は、立地企業との協議を重ね、時差出勤や企業バス運行等、企業自らの対策を促し実現することができた。
- ・浜松駅南口において、送迎目的の車両を駅南地下駐車場へ誘導し、地上での混雑緩和を図った。駅南地下駐車場20分以内駐車台数 H28:73,685台、H29:87,601台 118.9%

今後の方向性

大項目 改善 小項目 収集・分析 / ICT化 事業費 現状 人工 現状

- ・現在見直し中の浜松市都市計画マスタープランの将来都市構造への整合や公共交通を取り巻く新たな課題に対応するため、平成32年の公表を目指し浜松市総合交通計画の見直しを進める。
- ・将来の交通ネットワークの検討にあたっては、国や民間が研究開発を進めている自動運転技術を活用した次世代交通システム等について情報収集を行うとともに、地方への展開を見据え社会実験等があれば積極的に参画を図る。

事業シート (事業名) 公共交通推進事業

◇事業目的・事業対象

地球環境問題、高齢化社会、交通渋滞の課題に対応するため、使いやすい公共交通ネットワークの構築を図り、市民生活に必要な移動サービスを提供する。

◇事業の概要

【重点戦略項目 No.84】

- 身近な公共交通である路線バスを補助により維持すると共に、利用実態に合わせた改善を運行者と進める。
 - ・主に地域の幹線となるバス路線に対して、国、県等と協調して補助金を交付する。(2路線)
 - ・地域生活に必要なバス路線を自主運行バスとして運行する。(阿多古線)
- 市民生活に必要なバス路線を地域の実情に合う運行形態とするため、実証運行を行う。
 - ・地域バス12路線に市内統一の距離制運賃制度を導入することにより、収支改善を図る。
 - ・地域バス等において、効率的な運行体制の再構築及び来街者の利用環境向上を目的に、地域公共交通活性化研究会の開催、ICTを活用した予約システムを導入した路線の状況分析を行う。
- 公共交通空白地有償運送を実施している団体に対して運送の欠損金及び設備更新事業の一部に対して補助金を交付し、過疎地域等での移動手段を確保する。(2団体)
- 鉄道事業者の行う駅のバリアフリー化施設整備事業に対して補助金を交付する。

◇事業の性質

| 開始年度 | 終了予定 | 会計区分 | 事務区分 | 根拠法令等 | 総合戦略 | 重点戦略 | 主要事業 |
|------|------|------|-----------|----------------------------|------|------|------|
| H13 | — | 一般会計 | 自治事務(その他) | 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律、道路運送法 | ○ | ○ | ○ |

◇事業のコスト

| | | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---------------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 事業費(千円) | 予算 | 311,025 | 453,622 | 409,684 | 298,303 |
| | 決算 | 298,655 | 266,937 | 393,483 | |
| | 国・県支出 | 629 | | | |
| | 市債 | | | | |
| | その他 | 13,022 | 11,203 | 8,689 | 5,485 |
| | 一般財源 | 285,004 | 255,734 | 384,794 | 292,818 |
| | 一般会計繰入金 | | | | |
| 人件費(報酬等) (千円) | | | | 273 | |
| 人件費 (千円) | | 35,000 | 35,000 | 35,000 | 35,000 |
| 人工 | 正規 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| | 再任用(h31) | | | | |
| | 再任用(h26) | | | | |
| | 非常勤 | | | | |

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
|--------------------|---------------|---------------|---------------|----------|---------|----------|
| 主要な駅、バス停の利用者(千人) | | | | Ⅲ-4(1)イ | | 84 |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 | 約27,200 |
| 実績値 | 27,017(H26実績) | 27,575(H27実績) | 27,632(H28実績) | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |

◇平成29年度の事業評価

・平成29年度の事業の概要

【重点戦略項目 No.84】

鉄道駅バリアフリー化設備整備費助成事業(補助金)・単独事業 [決算170,000千円(うち前年度繰越170,000千円)]

- 身近な公共交通である路線バスを補助により維持すると共に、利用実態に合わせた改善を運行者と進める。
- ・主に地域の幹線となるバス路線に対して、国、県等と協調して補助金を交付する。(2路線)
- ・地域生活に必要なバス路線を自主運行バスとして運行する。(阿多古線)
- 市民生活に必要なバス路線を新たに運行、または現在の路線を地域の実情に合う運行形態とするため、実証運行を行う。
- ・地域バスの実証運行を継続する。(実証後の改善運行11地域、実証運行1地域)
- ・運賃の不均衡を是正するため市内統一の距離制運賃制度について検討を行い、H28年度より順次導入する。
- 公共交通空白地有償運送を実施している団体に対して運送の欠損金を補助することにより、過疎地域での移動手段を確保する。(2団体)
- NPO法人及び地域バスそれぞれに適したICTシステムを検討し、導入することで利用者増を図る。
- 鉄道事業者の行う駅のバリアフリー化施設整備事業、鉄道老朽化対策事業に対して補助金を交付する。

・事業の成果と課題

指標の達成度

計画通り

- ・路線バス補助金については、国、県等と協調して補助金することにより路線を維持した。
- ・地域バス12路線の実証運行を実施し、市内統一の距離制運賃を導入し、収支改善を図った。
- ・地域住民の利便性向上を目的とし、引佐地域バスにICT運行システムを導入した。
- ・遠州鉄道西ヶ崎駅、小林駅のサイクル&ライド、追分バス停のパーク&ライド、サイクル&ライド施設整備に対し、補助金を交付した。(整備箇所3箇所、うち新設1箇所、増設2箇所)
- ・公共交通空白地有償運送を実施している2団体に対して運行事業支援費として補助金を交付した。
- ・NPO法人がんばらまいか佐久間に対し、地域活性化を目的としたICT予約システムを導入し、実証運行を行った。
- ・遠州鉄道浜北駅でホームのバリアフリー化施設整備事業に対し補助金を交付した。
- ・UDタクシーを導入する交通事業者に対し、車両導入促進事業費として補助金を交付した。(補助台数:15台)

・事業の見直し

実施結果

大項目 改善 小項目 ICT化 / 受益者負担 事業費 現状 人工 現状

- ・地域バス、補助路線、自主運行バス路線全てにおいて、利用実態に併せた運行を行った。
- ・公共交通空白地有償運送を2団体が実施し、過疎地域での移動手段を確保した。
- ・ICTを活用し、引佐地域バス及び佐久間地区での公共交通空白地有償運送において実証運行を開始した。
- ・鉄道駅及びバス停にサイクル&ライド用駐輪場等を整備し、交通手段の乗り継ぎへの利便性を図った。
- ・遠州鉄道浜北駅でホームのバリアフリー化施設整備事業が完了したことにより、交通結節点での利便性が向上した。

今後の方向性

大項目 改善 小項目 統合・再構築 / 収集・分析 事業費 縮小 人工 現状

- ・地域バス等の継続的な運行と収支率改善による事業費の削減を目的に、便数改善や重複路線解消を進める。
- ・ICT予約システムの導入による公共交通空白地有償運送において利用状況を分析し、他地域への導入の可否を行うとともに、新規利用者増加を図る。
- ・ICT運行システムの導入による引佐地域バスの利用状況を分析し、他地域への導入の可否を行うとともに、地域バスの利用者増加を図る。

平成30年度

(管理番号)
03 03 03 01 002106000 02

(担当課)
交通政策課

(責任者)
鈴木 明彦

(作成日)
平成 30 年 7 月 1 日

補助シート (事業名) 公共交通推進事業

◇事業工程表(No.:重点戦略項目No)

| No. | H27 | H28 | H29 | H30 |
|-----|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 84 | 総合交通計画に基づき、バス路線の新設または改善 | 総合交通計画に基づき、バス路線の新設または改善 | 総合交通計画に基づき、バス路線の新設または改善 | 総合交通計画に基づき、バス路線の新設または改善 |
| | | | | |

事業シート (事業名) 天竜浜名湖鉄道経営支援事業

◇事業目的・事業対象

沿線住民の生活基盤となっている天竜浜名湖鉄道を存続し、安定した沿線住民へのサービスを提供するために経営支援を行う。

◇事業の概要

- 経営助成事業(補助金)
 - ・天竜浜名湖鉄道(株)の経営安定化を図るとともに、安全な列車運行のため必要な施設整備に対する助成を行う。
 - ・平成25年度に天竜浜名湖鉄道(株)が策定した中期経営計画に基づき支援を行うもの。(中期経営計画:平成26~30年度における、経営助成及び施設整備費の計画)
 - ・負担率は、県:1/2 沿線市町1/2。
- 天竜浜名湖鉄道経営助成基金積立金
 - ・天竜浜名湖鉄道の経営支援を行うために必要な資金について、県補助金及び沿線市町負担金として集め、基金に積み立てる。
 - ・浜松市天竜浜名湖鉄道経営助成基金に一旦積み立て、これを取り崩して経営助成事業に充てる。

◇事業の性質

| 開始年度 | 終了予定 | 会計区分 | 事務区分 | 根拠法令等 | 総合戦略 | 重点戦略 | 主要事業 |
|------|------|------|-----------|------------------------|------|------|------|
| H18 | - | 一般会計 | 自治事務(その他) | 浜松市天竜浜名湖鉄道経営助成基金に関する条例 | - | - | - |

◇事業のコスト

| | | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---------------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 事業費(千円) | 予算 | 452,192 | 450,472 | 378,187 | 375,112 |
| | 決算 | 452,192 | 450,472 | 376,549 | |
| | 国・県支出 | 105,700 | 105,700 | 105,700 | 105,700 |
| | 市債 | | | | |
| | その他 | 287,807 | 291,619 | 242,129 | 234,238 |
| | 一般財源 | 58,685 | 53,153 | 28,720 | 35,174 |
| | 一般会計繰入金 | | | | |
| 人件費(報酬等) (千円) | | | | | |
| 人件費 (千円) | | 6,300 | 6,300 | 6,300 | 4,260 |
| 人工 | 正規 | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 0.3 |
| | 再任用(h31) | | | | 0.6 |
| | 再任用(h26) | | | | |
| | 非常勤 | | | | |

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
|----------------------------------------|--------|---------|--------|----------|-----|----------|
| (営業収益)-(施設管理にかかる経費を除いた営業費用)>0円とする。(千円) | | | | - | | |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | - |
| 実績値 | -8,294 | -11,269 | -9,513 | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |

◇平成29年度の事業評価

・平成29年度の事業の概要

- 経営助成事業(補助金)
 - ・天竜浜名湖鉄道(株)の経営安定化を図るとともに、安全な列車運行のため必要な施設整備に対する助成を行う。
 - ・平成25年度に天竜浜名湖鉄道(株)が策定した中期経営計画に基づき支援を行うもの。(中期経営計画:平成26~30年度における、経営助成及び施設整備費の計画)
 - ・負担率は、県:1/2 沿線市町1/2。
- 天竜浜名湖鉄道経営助成基金積立金
 - ・天竜浜名湖鉄道の経営支援を行うために必要な資金について、県補助金及び沿線市町負担金として集め、基金に積み立てる。
 - ・浜松市天竜浜名湖鉄道経営助成基金に一旦積み立て、これを取り崩して経営助成事業に充てる。

・事業の成果と課題

- 指標の達成度
-
- ・中期経営計画に基づき、天竜浜名湖鉄道株式会社へ経営助成を行った。
 - ・平成29年度は、車両検査費用等について同計画を超えて支援する必要があると判断されたため同計画よりも40,532千円の増額とした。(計画値 168,000千円 実績 208,532千円)
 - ・収支改善により、「施設管理にかかる経費を除いた営業費用」を「営業収益」で賄うことを目標としたが、燃料費の上昇により達成できなかった。
 - ・基金の積み立ては、計画通りであった。
 - ・輸送人員 H28:1,549千人、H29:1,625千人 105.0%
 - ・旅客収入 H28:404,285千円、H29:432,079千円 106.9%

・事業の見直し

- 実施結果
- 大項目 小項目 / 事業費 人工
- ・県や沿線市町と協力し、天竜浜名湖鉄道株式会社への支援を行っていく。

今後の方向性

- 大項目 小項目 / 事業費 人工
- ・沿線市町の首長等が総会の中で、中期経営計画に基づき、平成30年度までの会社への支援を決定している。
 - ・次期経営計画(平成31~35年度)については、静岡県、沿線市町及び天竜浜名湖鉄道株式会社と現状分析を行い、同社からの目標値や収支計画を精査し支援方針を決定していく。

事業シート (事業名) 交通政策推進運営経費(一般諸経費のみ)

◇事業目的・事業対象

◇事業の概要

◇事業の性質

| 開始年度 | 終了予定 | 会計区分 | 事務区分 | 根拠法令等 | 総合戦略 | 重点戦略 | 主要事業 |
|------|------|------|------|-------|------|------|------|
| | | | | | - | - | - |

◇事業のコスト

| | | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---------------|----------|--------|--------|--------|--------|
| 事業費(千円) | 予算 | 4,099 | 9,438 | 5,022 | 4,456 |
| | 決算 | 3,571 | 7,829 | 4,232 | |
| | 国・県支出 | | | | |
| | 市債 | | | | |
| 人件費(報酬等) (千円) | その他 | | | | |
| | 一般財源 | 3,571 | 7,829 | 4,232 | 4,456 |
| | 一般会計繰入金 | | | | |
| 人工 | 人件費 (千円) | 21,000 | 21,000 | 21,000 | 19,640 |
| 人工 | 正規 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 2.6 |
| | 再任用(h31) | | | | 0.4 |
| | 再任用(h26) | | | | |
| | 非常勤 | | | | |

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
|--------------------|-----|-----|-----|----------|-----|----------|
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |

◇平成29年度の事業評価

・平成29年度の事業の概要

・事業の成果と課題

指標の達成度

・事業の見直し

実施結果

大項目 小項目 / 事業費 人工

今後の方向性

大項目 小項目 / 事業費 人工

政策シート

(政策名) はままつ流の多様な暮らしに対応した「安全・安心・快適」な交通を目指して

(予算費目名) 駐車場事業特別会計

(総合計画体系)

「分野」 安全・安心・快適

30年後の姿 どこでも安全、いつまでも安心、持続可能で快適なまちになっている。

- 10年後の目標
- ・ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
 - ・ 居住エリアの集約化などが進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

◆基本政策 市民が集う活力ある都市づくり

◇政策の概要

地域特性に対応し、過度に自動車に依存しない、公共交通を基軸とした交通行動への転換を図るための交通施策を複合的に実施することにより、安全・安心で快適に移動することができる都市づくりを進める。
このため、市営5駐車場を供用することにより、中心市街地において発生する交通渋滞及び違法駐車を抑制し、中心市街地の機能の向上とよりよい交通環境の形成を図る。
ただし、市が駐車場を運営する必要性が希薄になっていることから、民営化又は廃止を図っていく。

◇政策のコスト(千円)

| | H27 | H28 | H29 | H30 |
|------------------|---------|---------|---------|---------|
| 予算 | 698,179 | 503,733 | 560,682 | 538,176 |
| 決算 | 692,073 | 476,985 | 536,407 | |
| 人件費(A) | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 |
| 報酬(B) | | | | |
| 年間経費(予算又は決算+A+B) | 699,073 | 483,985 | 543,407 | 545,176 |

◇政策の指標

| 政策指標 | 単位 | H36 目標値 | 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|------------|----|------------|----|-----|-----|-----|-----|
| 廃止・売却する駐車場 | 箇所 | 4 | 目標 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | 目標 | | | | |
| | | | 実績 | | | | |

◇平成29年度の政策評価(政策の概要)

地域特性に対応し、過度に自動車に依存しない、公共交通を基軸とした交通行動への転換を図るための交通施策を複合的に実施することにより、安全・安心で快適に移動することができる都市づくりを進める。
このため、市営5駐車場を供用することにより、中心市街地において発生する交通渋滞及び違法駐車を抑制し、中心市街地の機能の向上とよりよい交通環境の形成を図る。

◇平成29年度の政策評価(政策の進捗・課題)

<進捗> 計画通り

- ・5駐車場を指定管理者制度(利用料金制)により効率的に供用できた。
- ・駐車場の健全な供用を継続できるよう、施設修繕を行った。
- ・課題は、施設の老朽化が著しく、多くの修繕箇所が発生している。
- ・駐車台数 H28:1,013,169台、H29:1,072,603台 105.9%
- ・駅南地下駐車場20分以内駐車台数 H28:73,685台、H29:87,601台 118.9%

◇政策実現のために実施する事業一覧

| | 事業名 | 総合戦略 | 重点戦略 | 主要事業 | 完了 | コスト (千円) | 事業費 (千円) | 人工 | | | | 報酬 (千円) |
|----|-------|------|------|------|----|-------------|-------------|-----|--------------|--------------|-----|------------|
| | | | | | | | | 正規 | 再任用 (31h) | 再任用 (26h) | 非常勤 | |
| 1 | 駐車場事業 | | | | | 545,176 | 538,176 | 1.0 | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | |
| 16 | | | | | | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | 545,176 | 538,176 | 1.0 | | | | |

※人工単価(千円)正規7,000 再任用(h31)3,600 再任用(h26)2,600 非常勤2,800

事業シート (事業名) 駐車場事業

◇事業目的・事業対象

中心市街地において発生する交通渋滞及び違法駐車を抑制し、中心市街地の機能の向上とよりよい交通環境の形成を図る。

◇事業の概要

- ・市営5駐車場(新川北・新川南・駅北・ザザシティ・駅南地下)について、引き続き指定管理者制度(利用料金制)により維持管理を行う。
- ・施設の機能を維持するため、各駐車場の修繕などを行う。
- ・平成34年度を目途に4駐車場について民営化又は廃止を行う。

◇事業の性質

| 開始年度 | 終了予定 | 会計区分 | 事務区分 | 根拠法令等 | 総合戦略 | 重点戦略 | 主要事業 |
|------|------|------|-----------|-------|------|------|------|
| S39 | H34 | 特別会計 | 自治事務(その他) | | - | - | - |

◇事業のコスト

| | | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 事業費(千円) | 予算 | 698,179 | 503,733 | 560,682 | 538,176 |
| | 決算 | 692,073 | 476,985 | 536,407 | |
| | 国・県支出 | | | | |
| | 市債 | | | | |
| | その他 | 13 | 13 | 45 | 41 |
| | 一般財源 | 489,964 | 294,391 | 356,175 | 378,582 |
| | 一般会計繰入金 | 202,096 | 182,581 | 180,187 | 159,553 |
| 人件費(報酬等)(千円) | | | | | |
| 人件費(千円) | | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 |
| 人工 | 正規 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 |
| | 再任用(h31) | | | | |
| | 再任用(h26) | | | | |
| | 非常勤 | | | | |

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
|--------------------|-----|-----|-----|----------|-----|----------|
| 廃止・売却する駐車場(箇所) | | | | | | |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 実績値 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |
| 主な事業活動・事業成果 指標(単位) | | | | 総合戦略施策体系 | | 重点戦略項目No |
| 年度 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H36 |
| 目標値 | | | | | | |
| 実績値 | | | | | | |

◇平成29年度の事業評価

・平成29年度の事業の概要

- ・市営5駐車場(新川北・新川南・駅北・ザザシティ・駅南地下)の維持管理を指定管理者制度(利用料金制)により行う。
- ・施設機能を維持するため、各駐車場の修繕などを行う。

・事業の成果と課題

指標の達成度

- ・H27年度から利用料金制を導入、民間の経験や資金を施設に対して投入した。
- ・施設機能を維持するため駐車場施設の修繕工事を行った。
- ・課題は、施設の老朽化が著しく、多くの修繕箇所が発生している。
- ・民営化又は廃止に向けた調整が必要。
- ・駐車台数 H28: 1,013,169台、H29: 1,072,603台 105.9%
- ・駅南地下駐車場20分以内駐車台数 H28: 73,685台、H29: 87,601台 118.9%

・事業の見直し

実施結果

大項目 小項目 / 事業費 人工

- ・次期指定管理者選定において指定管理者納入金の固定額を応募者の提案とすることにより、納付額が大幅に増額した。

固定額 H29: 321,200千円、H30~: 375,000千円

今後の方向性

大項目 小項目 / 事業費 人工

- ・中心市街地においては民間でも駐車場事業を行っており、駐車場経営計画では平成34年度を目途に駅南地下駐車場を除き民営化又は廃止すると計画付けされている。
- ・駅南地下駐車場において長寿命化調査を行い、市営駐車場経営戦略の策定に向けデータを収集し、平成34年度まで効率的に施設を維持するための修繕計画を作成する。

行財政改革の取り組み (事業名) 駐車場事業

◇取組概要

市が駐車場事業から撤退することを目標として、ザザシティ駐車場建設事業債の償還が完了する平成34年度を目途に、市営駐車場を廃止・売却していく。ただし、駅南地下駐車場については浜松駅送迎機能を有するため、平成34年度以降も経営を継続する。
ただし、市が駐車場を運営する必要性が希薄になっていることから、民営化又は廃止を図っていく。

◇行財政改革の視点 5 事務事業の見直し

◇行財政改革の進行管理(行政経営計画、個別計画等、政策・事業シートのうち、該当する項目に記載)

行政経営計画 取組番号 _____
取組事項名 _____

個別計画等 計画名等 _____

政策・事業シート(以下の項目に記載)

◇行財政改革の指標・効果額

| 指標(単位) | | H27 | H28 | H29 | H30 | 最終値 |
|---------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----------|
| 1 | 廃止・売却する駐車場(箇所) | 計画値 | 0 | 0 | 0 | 0 (H36) 4 |
| | | 実績値 | 0 | 0 | 0 | |
| 2 | | 計画値 | | | | |
| | | 実績値 | | | | |
| 3 | | 計画値 | | | | |
| | | 実績値 | | | | |
| 効果額(千円) | | | | | | |

◇行財政改革の評価

◀年度末の進捗状況 計画通り ▶

【平成29年度】

当面の管理運営として利用料金制を導入し、民間の経験と資金を投入した。その結果、利用台数で前年度比105.9%、利用料金収入で108.9%に増加した。さらなる利用促進のため管理者の自主事業実施を促す。